

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成 28 年 6 月 15 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科内科学講座臨床免疫学

職 名・学 年 博士課程3年

氏 名 辻 英 輝

助成の種類	平成28年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成		
研究集会名	(和文)2016年欧州リウマチ学会年次集会 (英文) The Annual European Congress of Rheumatology EULAR 2016		
発表題目	(和文)関節リウマチにおいてDAS28の時系列平均は骨関節破壊とより強く関連するか? (英文) Does the time series of DAS28 correlate with bone destruction as well as a certain point of DAS28 in rheumatoid arthritis ?		
開催場所	イギリス・ロンドン・会場:ExCel London		
渡航期間	平成28年 6月 7日 ~ 平成28年 6月14日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	バス賃	2,620円
		航空賃	141,970円
		日当	26,410円
		宿泊料の一部	8,000円
		空港使用料	13,000円
旅券交付手数料		16,000円	
発表資料作成費	30,000円		
参加登録料	40,000円		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 助成金のおかげで、学会発表の印刷など準備を滞りなく行うことができました。またイギリスに渡航するためには多くの渡航費・参加費がかかりますが、今回助成を受けることで参加、発表することができました。ありがとうございました。		

平成 28 年度京都大学教育研究振興財団
国際研究集会発表助成・若手 発表助成報告書

京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学
大学院 3 年 辻 英輝

平成 28 年度京都大学教育研究振興財団国際研究集会発表助成・若手を助成頂きました。この助成金は、学会発表資料作成費、研究集会発表に要する旅費全般及び参加登録料に使用いたしました。私は大学院生であり欧州に渡航するに当たり金銭面の負担の心配があったのですが、この助成金のおかげで、平成 28 年 6 月 8 日から平成 28 年 6 月 11 日にイギリス、ロンドンにて欧州リウマチ学会が開催した **The Annual European Congress of Rheumatology EULAR 2016** (和文：2016 年欧州リウマチ学会年次集会)に参加し、研究内容をポスター発表することができました。この学会に参加できたことは今後の研究の進展におおきな貢献になりました。

今回出席した **EULAR2016** は欧州を中心として世界中からリウマチ・膠原病・自己免疫疾患・整形外科の学者、医療関係者が集まる集会です。例年 4000 以上の発表が採択され、約 200 の部門が開催され、網羅する範囲は、リウマチ・膠原病・整形外科領域の疾病の病態解明、新規治療法、医療経済、新規検査法、臨床疫学研究ならびに免疫学など基礎医学等多岐にわたります。この集会に出席することで、私の研究を世界中に知ってもらうことができ、海外の学者と交流するよい機会となり、世界中の新しい知見を私が知ることで次の研究につながる可能性があると考えます。

私は、関節リウマチの骨破壊に関して研究をしております。今回報告した内容は、関節リウマチの骨破壊の適切な評価方法と、骨破壊に関する新たなリスク因子を同定したことです。具体的に述べますと、関節リウマチの骨破壊の関連因子として自己抗体、疾患活動性(DAS28)、罹病期間等が知られています。その中で DAS28 はある一時点の値を用いることが一般的ですが、DAS28 は継時的に変化しているため現状の解析方法では新規関連因子の同定において DAS28 の補正が十分でない可能性があります。本研究では KURAMA コホートという京都大学医学部附属病院のデータベースを用い、時間的変動を考慮した DAS28 スコアがより鋭敏に RA 骨破壊と関連することを証明しました。さらに時間平均 DAS28 を用いてヒト白血球抗原 HLA-DRB1*04:05 (遺伝による) が関節リウマチ関連自己抗体と DAS28 と独立した関連因子であることも証明しました。

この内容はリウマチ学・自己免疫疾患学の世界では重要かつ先鋭的であり、本邦だけでなく海外の研究者に広く知ってもらうべき内容でした。**EULAR2016** は関節リウマチのセッションが多く、関節リウマチに関してはさかんに議論がなされていました。それゆえ、**EULAR2016** で発表したことは、世界中の学者・医療関係者に発信できたことであり、かつ京都大学の名声を向上させたことと考えます。また、今回の研究はヒトのデータを対象としていますが、本邦に限定したものでした。関節リウマチの骨破壊に関しては本邦と海外では異なるリスク因子が報告されることが多くあります。今回の研究も、次の step として本邦だけでなく、欧州を含めた世界レベルで検証することが望まれます。**EULAR2016** に出席するに当たり、我々と同様の解析が可能なデータを持っている海外のグループ、学者と親交を深めることも目的としてお

りました。実際に会場では欧州の大規模なデータベースを有するグループが多数発表しておりました。まだ具体的な話に進展はしておりませんが、彼らといずれは共同研究を行いたいと考えております。

学術集会に参加すると新たな知見を習得することができます。EULAR2016に参加することで私自身に刺激となった内容がありました。関節リウマチの活動性の評価として本邦では関節超音波検査が普及されつつありますが、欧州では本邦よりも進歩した検証がなされておりました。関節超音波検査は非侵襲的であり、小児にも用いることができます。レントゲンやMRI検査に代わる検査手法であり、本邦でも関節超音波検査に対する熟達したスキルを普及させることが必要であり、今回最新知見に触れることができましたので、その知見を京都大学で広めることは医療レベルの向上につながると考えています。

最後になりますが、EULAR2016に参加するに当たり、イギリスへの渡航費・滞在費、学術集会への参加費が私にとっては経済的に負担と考えておりました。貴財団からの支援によって、無事集会に参加、発表することができました。貴財団に厚く御礼申し上げます。